

# 道玄だより 第5号

## 「建造物の漆塗装」



建造物の外装・内装に漆を塗ることは、わが国では仏教伝来以降のことである。言わば中国や朝鮮半島から塗装文化がもたらされたのである。特に外装についてはその例は少なく、現在確認できる最古のものは九州の宇佐八幡宮第一・第二殿であろう。その後平安京大極殿や平等院鳳凰堂、平泉金色堂、金閣寺などに見られるが、桃山時代より近世にかけてにわかに外装の漆塗りが多くなる。それは伏見城や東照宮に代表されるものであるが、いずれにしろ建造物の漆塗りは高価で、国力の充実がなくては実現できないものであった。建造物の外装は当時の国家的事業としておこなわれ、職工達周辺の国民生活を支え、技術が伝承され、現在に至るのである。 代表取締役 澤野 道玄



### 国宝 醍醐寺三宝院唐門

- ・工事の名称 国宝三宝院唐門保存修理工事（塗装工事）
- ・所在地 京都府伏見区醍醐東大路町
- ・工事の内容 唐門及び扉について、漆塗り及び漆金箔押し
- ・完成 平成22年春完成

醍醐寺三宝院は醍醐寺歴代座主の住坊で、桃山時代の国宝建造物です。今回工事をした唐門は、その勅使門として使われていました。またこの門の内側には、豊臣秀吉の「醍醐の花見」としても知られている庭園があります。

扉の中央に豊臣の紋である「五七の桐」、左右には直径4尺5寸もある肉厚の複弁十二葉の菊紋が配されています。

京都府教育委員会文化財保護課 主査 浅井 健一 氏 より

落雷による損傷を契機に、小屋や軒、建具などに及ぶ大がかりな保存修理を行いました。修理に際しては、価値を正しく「伝える」ことを大きな命題とし、部材をひとつひとつ調べ、それらのできる限り「生かす」とともに、それらを通じて感得した建物の「本質」を損なわぬように心血を注いできました。とかく煌びやかに蘇った漆塗ばかりに目を奪われがちですが、これも「伝える」手段の一つで、もちろんその下には、建築当初の材料がしっかりと守られて生きています。建物を通じて、400年前の姿や、さらに奥底にある時代観を感じていただければうれしく思います。



菊紋を取り外すと桐紋の跡があった



扉内部 門まで漆塗り



下塗り研ぎの後 中塗りを施す



現場での下地作業



今回の工事で採用した漆作業の工程手板 本堅地仕様である





# 祇園祭と漆



2010年7月17日の山鉾巡行は、梅雨明けの晴天下で執り行われた。  
 山鉾の中に漆を探すとまず目につくのは鱧仕立てされた黒漆の四天柱や欄縁であるが、正面を飾る金幣にも漆が使われる。金幣は、和紙に漆で箔が押されている。その和紙が数枚重なり漆塗りの幣差しに納まっている。



御幣は神を象徴する。また「神の衣」を表しているのだそうだ。もともと布を奉納していた祖先の慣わしが、いつしか象徴として残り、神を表す形として今に伝わっているらしい。

紙と漆によって独特の厚みができる。巡行時の振動で御幣はふわっと揺れるが、それは独特の厚みならではの揺れである。

徳永 陽子

私の好きな文化財

## 平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像の天蓋

漆塗師 狭間 要一

平等院に紫檀塗りという技法の漆芸品があると聞いて、江戸時代の他の素材に似せて作られた工芸品を思い出した。

最近、相国寺の承天閣美術館の柴田是真展に展示されていた中に似た技法のものがあつた。漆で紫檀の色味を出してから細かな木目まで彫り込み、紫檀に似せて作られた工芸品だ。

平等院阿弥陀堂二重天蓋の格子に施された紫檀塗りは、漆で木地に夜光貝を貼りこみ、その段差を埋めるために赤色の漆下地をつけて平滑に研ぎ出されている。

平安時代に作られたこの天蓋に使われた技法は、貝を固定するための下地を装飾として利用されている。

漆が他の素材を取りこみ、下地材までも引き立たせる塗料として使われている良い例だと思ふ。



漆の下地に使用される材料

◇発行 株式会社さわの道玄

〒604-8232  
 京都市中京区錦小路通油小路東入る空也町491番地  
 TEL 075-254-3885 / FAX 075-254-3886  
<http://www.sawanodogen.com> (道玄だよりはホームページにも掲載しております)

企画、編集:徳永  
 イラスト:山岡  
 デザイン:四元

# 修復レポート

〇さわの道玄の仕事をご紹介します〇

## 重要文化財 西岡邸建具漆塗り

(佐賀県嬉野市)



西岡邸は、鎖国時に長崎からの情報を江戸に伝えるため利用され栄えた、旧長崎街道沿いにある豪商の町家です。

現在、欄間や格子戸、襖などの建具86枚の新調・漆塗りの修復をしています。

## 重要文化財 談山神社権殿漆塗り

(奈良県桜井市)



談山神社は、奈良盆地の南東、多武峰にある藤原氏ゆかりの神社です。

現在、権殿内部の神壇と天井格縁の漆塗り修復をおこなっています。

## 真言宗高野山派 岩屋山 妙楽寺 仁王像修復

(福井県小浜市)



仁王像阿吽形一對二軀

座高:1640mm

修理:全解体

木部修理

漆塗り替え

彩色復原

修復前の塗膜断面調査や成分分析の結果、胴体は弁柄塗り、天衣は彩色を施していたことがわかりました。  
 平成22年の夏に修理完了し、山門に納めました。



修復前の状態



天衣の調査 -塗膜断面写真-



天衣に彩色を施す様子

# 圓塾 さあくる講座のご案内

～圓塾は、文化財活用を推進する 關さわの道玄の姉妹事業です。～



## 五行の道をゆく

2010年のさあくる講座は、陰陽五行説「木、火、土、金、水」をイメージしたハイキング講座『五行の道をゆく』を開催中です。

木は水を得て生長し、木は燃えて火を生みます。  
 火はやがて燃え尽きて土となります。  
 土は懐に金を抱き、金は冷えて水滴を生じます。

五行の道を訪ね、ゆかりある食事とも味わって心身を満たしましょう。  
 案内人は關さわの道玄 社長 澤野道玄です。

第3回 京の土に塗れる 10月8日(金) … (伏見界限) 縄土土器からセラミックへ

第4回 金の音を訪ねる 11月8日(月) … (難波界限) 鑄金技術と刀剣鍛錬神事

2011年  
 第5回 火霊に焦がれる 2月27日(日) … (左大文字～平野神社) 京の火床と焚き火を囲んで

<参加費> まだ空きがございます。  
 1回4,800円 3回セット14,000円 参加ご希望の方は、圓塾までご連絡ください。



圓塾(えんじゅく)へのお問い合わせはこちら

〒615-8205 京都市西京区松室中溝町30-11  
 TEL 075-382-1238 / FAX 075-382-1239  
<http://www.enjyuku.info>  
 圓塾代表 澤野ともえ

# 『五行の道をゆく』フォトレポート

先人から愛蔵されてきた文化の宝が、参加者の心に活きますように・・・  
 スタッフ一同、心をこめて水先案内いたします!

## 第1回『巨樹を求める』



①ここは鞍馬寺仁王門。俗界と尊天界の結界です。



②尊天とは、私たち人間をはじめ万物を生かし存在させてくださる宇宙エネルギー。鞍馬山では、たつぷりとその恵みを浴びた巨樹達に触れました。



③鞍馬山に咲く花々。

## 第2回『疏水名水に憩う』

④山科～御陵間の疏水沿いを歩きました。現在、世界遺産登録に向けての動きがある琵琶湖疏水。疏水事業の総指揮を執ったのは、若干23歳の田辺朝郎でした。

世界遺産となって彼らの不屈の精神がより多くの方に伝えられることを願います。



⑤本因寺の噴水でお金を洗うとお金持ちになるそうです。